

## 新春懇親会における稲葉代表あいさつ

21世紀に入ってすでに17年目に入りましたが、ここ何年かで社会に大きな変化が生まれており、時代の転換が始まったのではないかと思います。変化の主なものを挙げてみます。

世界を巻き込んだ経済のグローバル化の弊害、限界が露呈したこと▽新自由主義、競争原理主義の経済の矛盾が、格差拡大や新興国と途上国の軋轢を生み出していること▽マネー資本主義がだれも制御できない「怪物」となり世界を窮地に追い込んでいること▽ITや人工知能など、技術の急速な進歩が先進国で雇用を奪っていること▽戦後、欧米や日本が目指した福祉国家という目標が少子高齢化や市場原理主義経済の帰結として困難に直面し、戦後目指してきた平等主義的な考え方が消えてしまったこと――などです。

こうした変化は、人々の希望や前向きに生きようとする気力を打ち砕き、深刻な行き詰まり感をもたらしています。80年代から広がってきた経済のグローバル化、マネー資本主義経済はさまざまな問題を生み出し、「終焉に向かっての始まり」が起きていると考えます。

### 露呈する新自由主義経済の行き詰まり

しかし、私たちはまだ、競争原理による新自由主義経済にとって変わる新しいシステムを生み出していません。当面は、格差拡大や貧困の広がり、さらには世界の各地で起きている紛争やテロなどの問題を抱えながら、混迷の時代が続くものとみられます。

そして、昨年、「ショック」ともいえる大きな変化が起きました。英国のEU離脱の動き、そして米国ではトランプ氏が大統領選で勝ったことです。EUは英国が離脱の方向になったことで崩壊に向けて一歩を進めたのではないのでしょうか。また、トランプ氏は「アメリカファースト（米国第一主義）」と訴え、保護主義的な経済政策への切り替えが進むことへの危惧が広がっています。

### 「時代の転換点」の始まり

今後の世界を読み解くキーワードは「自国が第一」そして「自分が第一」という危ういものになるのでしょうか。EUが目指した国々の共同体による社会経済のシステムが崩れ、大国アメリカの排他的、保護主義的な振る舞いによって、共同体的な発想から「自国利害中心主義への転換が起きる可能性が高まると思われます。将来は深い霧の中にあり、不確定なことが数多く存在しています。そうした中で、日本はどう対応すればいいのでしょうか。今のところ、政府や経済界は様子見の状態、確固たる方向を見つけ出せていません。

日本でも格差拡大が広がり、3人に1人が非正規労働者という状況が続いています。グローバル化によって製造業は生産拠点を海外に移しており、雇用が空洞化しています。

経済のグローバル化によって先進国の生産拠点が人件費の安い途上国に移転したことや、人口知能

や IT 技術の進展もあって、世界的な雇用不足が生じています。人の仕事の 4 割は IT に取って代わられると予測する人もいます。先進国を中心に製造業やサービス産業のなどの雇用が大幅にしばむ中で、失業率が上昇し雇用なき貧困の状況に直面しており、日本もその流れの中にいます。

政府は「働き方改革」を主要政策として掲げています。「同一労働同一賃金」の取り組み、長時間労働の是正などがテーマとなっています。どれも大事な課題ではありますが、政策決定に労使の顔、そして働く人たちの顔が見えてこないのが気になります。

今、安倍政権主導による雇用・労働政策に国民の関心が向いていますが、一番必要なことは労使が目の前の状況にどう向き合うかだと思います。働き方を決めるのは、まずは労使協議ありきではないでしょうか。政府が決めても労使がこれに納得できなければ、政策に魂がはいらず、空理空論、絵に描いた餅になってしまいます。まずは労使がしっかり向き合うことが大事です。

あの時が時代の転換点だった、と気づくのはもう少し先になるのでしょうか。しかし、世界的に雇用減少社会が現出する可能性が高まっています。発想を転換させて新自由主義に代わる、「新しい社会・経済システム」を構想し実現させていくことが必要だと考えています。